・完成したシートを談話室の「ほんまかファイル」に綴じてください。
・このシートは、ラーニング・プログラムの活動記録に掲載する場合があります。

京都市京セラ美術館 ラーニング・プログラム

「名画との縁結びシート」No.9

コレクションルームの作品を
みんなで研究しよう！

日ー223
菊池芳文（きくちほうぶん）
文久2ー大7年
春の夕・霜の朝（はるのゆうべ・しものあした）
明治36年
絹本着色　屏風　八曲一双
各158.5×485.0cm
第5回内国勧業博覧会（大阪）　購ー1973

N-223
KIKUCHI Hobun
1862-1918
Spring Evening, Frosty Morning
1903
Pigment on silk; pair of eight-fold screens
158.5 × 485.0 ㎝ each
5th National Industrial Exposition, Osaka, p-1973

研究にチャレンジしよう！

空想でも想像でも良いので、みなさまの考えを書き残してください。
（正解はひとつではありません）
小さなお子さま連れの方は、お子さまの考えも書き残してください。

☑ 作品を見て質問に答えよう！

● この作品は「八曲一双」と呼ばれる、合計16枚の画面で出来ています。
● 画面に向かって右側を右隻、左側を左隻と呼びます。

□ 1. 作品の中心の位置に立ってください。右隻と左隻のどちらのほうが好きですか。なぜそう思いますか。

□ 2. 右隻の右端から始まる物語を想像するとどんな物語になりますか。なぜそう思いますか。

□ 3. 左隻の左端から始まる物語を想像するとどんな物語になりますか。なぜそう思いますか。

□ 4. 右隻と左隻にまたがる絵の中心部分の余白になにを感じますか。なぜそう思いますか。

□ 5. その他にも思ったことや、疑問があれば書いてください。

□ 6. あなたもなにか質問を思いついたら書いてください。

↑きりとり線

●作品について

この作品は、右隻では花が咲く桜の木を仰ぎ見ることで春の夕空の暖かな大気をとらえ、左隻では葉が落ち、枝も折れた木々をとおして凍てついた川や霜が降りた地面を見下ろすことで、底冷えした冬の朝の寒さをとらえています。作者の菊池芳文は、右隻と左隻で題材を対比させるとともに、右隻と左隻にまたがる中心部には大胆な余白が生じるように描いています。この作品の物語を右隻の右端から想像してゆくのと、左隻の左端から想像してゆくのとでは物語と、余白の意味に大きなちがいが生じます。描かれているものをよく観察して、作者の考えを想像してください。